

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第572回北九州地区小児科医会例会 (WEB開催)

日時：2021年10月29日 (金) 19:15～

講演：「小児科診療で使ってほしい漢方薬」

演者：三重大学付属病院 漢方外来 高村 光幸 先生

※事前登録の申し込みが必要です下記リンク

もしくはQRコードより登録ください。

<https://bit.ly/3ixhLq9>



※11月の例会は中止です。

その他講演会などのご案内

第441回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2021年11月25日 (木) 19:00～

演題1：「失神発作との鑑別を要した発達障害の一例」

演者：北九州市立総合療育センター 小児科 鈴木 聖子 先生

演題2：「療育センター長期入所の現状」

演者：北九州市立総合療育センター 小児科 藤田 弘之 先生

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

北九州地区小児疾患 WEB セミナー (終了)

日時：2021年10月18日 (月) 19:00～

演題：「最近増加している、乳幼児期のくる病 日常診療で見逃さないポイント」

演者：産業医科大学 医学教育担当教員 准教授 山本 幸代 先生

R3年度第1回乳幼児健診登録医療機関研修会

日時：2021年11月8日 (月) 19:00～

場所：北九州市立商工貿易会館 2F 多目的ホール

報告：「R2年度乳幼児健診等結果について」

北九州市子ども家庭局子育て支援課

演題：「乳幼児歯科健診と低ホスファターゼ症の
医科歯科連携」

演者：北九州市歯科医師会 専務理事

板家小児歯科院長 板家 隆 先生

※昨年度はコロナ禍のため研修会は1回しか開催できませんでした。本来は年1回以上の出席が義務づけられていますが昨年度出席できなかった登録医療機関は今年度最低1回出席で登録医療機関として継続されます。

(R3年度第2回の研修会はR4年3月に開催予定)

産業医科大学カンファランス・セミナー

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科セミナー

日時：10月28日 (木) 18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：見逃してはいけない神経筋疾患—筋ジストロフィー

演者：産業医科大学小児科 柴原 淳平 先生

五十嵐 亮太 先生、福田 智文 先生、石井 雅宏 先生

※10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスはお休みです。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：11月8日 (月) 19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：小児内分泌外来 様々な子どもたち

演者：九州労災病院小児科 河田 泰定 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：11月25日 (木) 18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

国内留学・外来研修報告会 Part 1

演題1：東京都立小児総合医療センター 内分泌・代謝科
での研修報告～スタンダードな診断・治療とは～

演者：産業医科大学小児科 齋藤 玲子 先生

演題2：福岡市立こども病院アレルギー・呼吸器科研修で
学んだこと (+産業医の経験)

演者：産業医科大学小児科 川村 卓 先生

保険診療メモ (202109)

世情雑感

健康保険審査委員の任期終了にあたり、この間ご指導・ご教示頂いた各位に衷心より御礼申し上げます。現行の医療について、診療の現場とは異なる視点から検証する機会が得られ、大変勉強になりました。以下、思いつくままに私見を述べますがご笑覧ください。

ご承知の様にわが国の医療制度は、国民皆保険、フリーアクセス、高額療養費制度などの特典を有し、受療者は大変恵まれていると言えます。しかし、現状のままでの制度維持が困難であることは明白です。2019年11月以降の「コロナ禍」を契機に、わが国の「少子化」は急加速しています。2019年の出生数は86万5,234人、さらに2020年は統計史上最少の840,832人でした。しかし、これは未だ「コロナ禍」を反映したものではありません。その影響は2020年以降に顕著になります。

ちなみに、2020年の累計妊娠届数は872,227件で前年比-4.8%でした。結果、2021年の出生数は前年比-7.5%の78.4万人まで落ち込むことが推測されます。少子化が想定より凡そ10年前倒しで進むこととなります。加えて2020年の婚姻件数は前年比-12.3%の525,490件で戦後最少となっており、今後の出生数の更なる減少をもたらす事となります。

これでは“明るい未来”へ暗雲が漂いますが、誰しものが指摘するように、日本社会全体が活気を取り戻し、若い世代が安心して結婚・子育てできる環境を目指す以外に少子化の進行は避けられません。官民が一致・協同して取り組むべき喫緊の課題に思われます。さも無ければ、志ある若者達の海外への流出は今以上に進み、“負のスパイラル”に陥った社会の再興は困難を極めることとなります。政財界はじめ各界の指導者諸氏の頭の中に、果たして如何なる良案があるのか、分かり易く具体的に示して頂きたいものです。

このような状況下で第一線の小児科医は、子育て世帯の家庭医・総合医としての存在意義をより高め、小児の急性期医療もさることながら、これまで以上に、各種予防接種や検診をはじめ、家族全員の健康維持・増進に力を注ぐことが肝要に思われます。

「コロナ禍」への対応は、この国の情報処理・運用体制が極めて不十分であることを露呈しています。様々な局面で実態の把握が滞り、諸手続きの遅れ・不手際で、施策の迅速な実施に多大な支障を来しています。一方、妊娠届出、出生届出、妊婦検診、乳幼児検診、学校検診、さらに税務管理等々、個々人の“申請・登録”の機会は決して少なくありません。母子健康手帳交付の時点で“登録”し、出生後は、いわゆる“縦割り行政”の壁を排除し、“マイナンバー”へ繋がれば、巨額を投じて新たに整備する必要もなくなります。

また、医療の場では、電磁的記録媒体を最大限に活用し、妊娠、出産、育児の過程における母子の健康状態に加え、個々の受診・診療状況等が適正な情報管理体制下で蓄積・保存されることが要件になると思われます。受療者、医療者、あるいは官民の別を問わず、予め認証された個人、団体等の“有資格者”が、何時どこからであれ、適宜、アクセス・検証可能とすることが、効率の良い適正な医療とそれを支える保険医療制度の維持に繋がるものと考えられます。以上、いささか不遜な申し様ですがご寛容ください。先生方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

福重淳一郎

役員会報告 (10月7日：木曜日)

協議事項・報告事項

1) 北九州地区小児科医会の会費の集金を行なっております。ご協力をお願いいたします。

2) 第58回定期総会について

2022年1月16日(日曜)リーガロイヤルホテル小倉にて開催予定です。今年は役員改選となります。このため将来構想委員会が行われています。また、懇親会については、コロナ禍であり、例年のような立食は難しいと思われ、着席の上でノンアルコールにするなど開催方法など含めて検討中です。

3) 勤務医入会の取り扱いに関して

勤務医は会費等は内規があるものの、入会の取り扱いについては明確な会則、内規がなく、会費徴収にあたって、いろいろな意見が出ています。現在は、昔からの慣行にならって勤務医は後期研修医から入会の上、会費を徴収していますが、これによって、施設間(病院間)で差があると不公平感が出てくるのではないかという意見がありました。また、北九州地区小児科医会は開業医と勤務医の交流も行われている場でもあり、他の会とは一線を画しており、学術任意団体と考えるも差し支えなく、もしそうであれば、入会届けがないことは不自然ではないか。(開業医は勤務届(入会届)を提出していただくことにしている)さらに若手にとっても、入会した意識はなく、所属意識がなくなっているようなところがあるのではないか。北九州地区小児科医会に入会すると九州小児科医会や福岡県小児科医会への入会も自動的になされているのも一考が必要という意見も出ています。ただし、短期間の研修ですぐに出ていかれる場合などもあるので、その辺の考慮が必要になってくるとは思われます。入会にあたってのメリットなど、わかるように記載をする必要があり、リーフレットのようなものを作成するのも必要なのではないかと。といった意見を頂いております。

こういった経緯から、明文化するには時間がかかりますので、まずは勤務医も入会届を出していただくようにすることにしました。ご協力をお願いいたします。

4) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議はありません。

異動報告

会員の異動：白川嘉継先生が福岡新水巻病院を退職され、10月1日に開業されています。

(福岡・みずまき母と子の心療所：福岡県遠賀郡水巻町猪熊8-18-28)

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

11月の例会は中止です。

12月予定 塩野義製薬

新型コロナ関連演題

2022年

1月 総会 報告事項参照

2月 未定 調整中

3月 未定

2. 乳幼児学校保健委員会 10月25日に行う予定です

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。